

三溪園のシンボルである旧燈明寺三重塔の保存プロジェクト始動

～返礼品第1弾『蓮の葉うちわ作り体験講座』～

国指定名勝の日本庭園「三溪園」のシンボルである「重要文化財^{きゅうとうみやうじさんじゅうのとう}旧燈明寺三重塔」は、1914年に京都から移設され、本牧の丘から横浜の発展を見守ってきました。そのシンボルを次世代に継承していくため、5年をかけた保存プロジェクトが始動します。7月10日より、横浜市独自のふるさと納税サイト「ふるさと生活」に、この保存プロジェクトを寄附の活用先として選べるようになりました。全国の皆様からのご支援とご関心を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、三溪園で、2025年7月19日から8月11日で開催する、「早朝観蓮会^{そうちょうかんれんかい}」のイベント『蓮の葉うちわ作り体験講座』を、ふるさと生活の三溪園の返礼品第一弾としてご用意いたしました。今後も、季節ごとの魅力を活かした返礼品の企画・開発に積極的に取り組んでまいります。どうぞご期待ください。

寄附の使い道：旧燈明寺三重塔保存プロジェクト ～500年の時を超えて、室町的美を次世代へ～

500年以上前の室町時代に建てられた旧燈明寺三重塔。1914年に京都府木津川市から移築され、小高い丘に静かに佇むその姿は、三溪園の象徴となっています。

今、移築から100年以上の時を経て、一つの節目を迎えています。今年度より、5年をかけた保存プロジェクトが始動。室町時代の技術や美意識に敬意を払いながら、一つひとつの工程を丁寧に、心を込めて進めていきます。

この取組は、単なる修繕ではありません。それは、歴史の鼓動を次世代につなぐ再生の物語。あなたの想いが、この塔に新たな命を吹き込みます。

三溪園を次世代に継承する取組に、どうかお力添えをお願いいたします。



返礼品第一弾『蓮の葉うちわ作り 体験講座』

本物の蓮の葉を自由に貼り、色付けを楽しむアートワークショップ。大人も子供も自由な発想で、世界に一つだけのうちわ作りを楽しめます。

日程 | 7/26(土)・27(日)、8/2(土)・3(日)

時間 | 9:00～15:00 (所要時間 30分)

会場 | 三溪記念館 エントランスホール

寄附額 | 10,000円 (入園料別途)

申込 | 右の二次元バーコード 又は

「ふるさと生活 横浜市」で検索

申込期限 | 7/26(土)・27(日)実施：7/22(火)〆切

8/2(土)・3(日)実施：7/29(火)〆切

(各日定員 50人)

提供 | ボタニーペインティング運営事務局



※ボタニーペインティング運営事務局のホームページでは、通常の販売も行っています。



裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



三溪園とは

三溪園は、明治末から大正末にかけて実業家・原三溪によって造成された日本庭園です。三溪は自邸の庭園を一般公開し、地域の人々に安らぎを提供しました。園内には、三溪が全国から移築した織田家・豊臣家・徳川家にゆかりのある茶室や数寄屋※が巧みに配置され、その佇まいに触れることで、当時の美意識や建築様式を感じることができます。また、庭園全域も文化財として国の名勝に指定されており、歴史と自然が調和した、日本文化を体感できる特別な場所です。 ※詳細は別紙参照

三溪園 早朝観蓮会 情報

蓮は、泥の中から清らかな花を咲かせることから「徳の高い花」とされ、三溪園の創設者・原三溪がとりわけ愛した花でもあります。この機会に、ぜひ三溪園に足を運び、美しい蓮の花とともに、歴史ある庭園の魅力をご堪能ください。



日程 | 2025年7月19日(土)から8月11日(月・祝)の金・土・日・祝日の13日間

時間 | 7:00～(閉園 17:00)

「蓮の葉うちわ作り体験講座」以外のイベント

■体験型イベント「蓮の体験コーナー」

蓮の茎や葉を使った遊びを通して、他の植物にはない蓮の生態について学んでいきます。小さなお子様でも保護者の付き添いがあれば、気軽にご参加いただけます。

日程 | 「早朝観蓮会」に同じ

時間 | 7:00～8:30

会場 | 外苑 蓮池周辺

内容 | 蓮の葉シャワー、蓮の糸取り体験、葉っぱのお面づくり等

料金 | 無料(入園料別)

■限定朝食メニュー (写真はイメージです)

限定朝食を目的にご来園される方も多く、早朝観蓮会限定メニュー。各茶店が趣向をこらした朝食は、さっぱりとして胃にも優しいと評判です。各店ともに7時から営業し、先着順でご提供します。



三溪園茶寮「朝がゆ」
税込 1,500円 *100食限定



雁ヶ音茶屋「中華がゆ」
税込 1,200円



待春軒「夏の朝ごはん」
税込 1,700円 *50食限定

【参考】横浜市独自のふるさと納税サイト

「ふるさと生活」

URL

<https://yokohama.furusato-seikatsu.jp>



お問合せ先

にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興課担当課長

坂田 和行

Tel 045-671-4233



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



三溪園に息づく歴史の風景 — 織田・豊臣・徳川の時代をたどる

横浜市中区に広がる三溪園は、明治末から大正末にかけて実業家・原三溪によって造成された日本庭園で、全国から移築された歴史的建造物が巧みに配置されています。その中には、戦国時代を代表する三英傑—織田信長、豊臣秀吉、徳川家康—にゆかりのある建築も含まれており、当時の美意識や建築様式を、今に伝えています。

臨春閣 (りんしゅんかく)

江戸時代はじめの1649年(慶安2年)に、現在の和歌山県岩出市の紀ノ川沿いに建てられた紀州徳川家の別荘「巖出御殿」と考えられた建物。1917年(大正6年)に移築の際、池に面して3つの棟を奥にずらしながら連結させた外観等から、「東の桂離宮」とも称されています。



旧天瑞寺寿塔覆堂 (きゅうてんずいじじゅうとうおおいどう)

1591年(天正19年)に、豊臣秀吉が母・大政所の長寿を祈って建てた生前墓の寿塔を覆っていた建物。桃山時代らしい豪壮な彫刻や柱とその上の組物などには、かつて鮮やかな彩色が施されていましたが、現在は剥落しており、内部の天井のみ当時の彩色を復原。



月華殿 (げっかでん)

1603年(慶長8年)に徳川家康が京都伏見城内に建てた諸大名の控えの間であったと伝えられており、内部には、海北友松筆とされる障壁画や、菊の透かし彫りが施された欄間を見ることができます。



聴秋閣 (ちょうしゅうかく)

徳川家光の上洛に際し、1623年(元和9年)に二条城内に建てられ、のちに家光の乳母であった春日局に与えられたと、春日局の嫁ぎ先の稲葉家の江戸屋敷に伝えられていました。形の異なる3つの屋根を組み合わせた外観から、移築前は「三笠閣」と呼ばれていましたが、三溪はこれを「聴秋閣」に改め、秋に紅葉を楽しむ風情としました。



春草廬 (しゅんそうろう)

織田信長の弟・織田有楽の作とされる江戸時代初めごろの茶室。かつて武士たちのたしなみであった茶の湯において、茶室に刀を持ち込むことは許されませんでした。入室前に刀を預けた「刀掛」を見ることができます。



旧東慶寺仏殿 (きゅうとうけいじぶつでん)

縁切寺・駆け込み寺の名で知られる鎌倉・東慶寺にあった建物で、江戸時代の初めごろに造られたものと考えられています。明治時代以降衰退し、建物の維持が困難になっていたことを憂えた三溪は、1907年(明治40年)に移築。令和2～5年の修繕工事で、非業の死を遂げた三代将軍・徳川家光の実弟・忠長の御殿の材料を一部再利用した建物であることがうかがえる痕跡の発見がありました。

